

島袋 玲さん  
Akira Shjmabukuro

〔仁田子区〕

シマブクロ アキラ/甲佐町地域おこし協力隊として町公営塾「あゆみ学舎」の講師を務める。休日は本を読んだり、アニメや映画を見たり、のんびり過ごすことも多いという。沖縄県出身。

## 健康・医療分野からの転身 公営塾で探すみんなの未来

「地域の中に子どもたちが伸び伸びと過ごすことのできるスペースを作りたい」と話すのは、昨年5月に地域おこし協力隊員に着任し、甲佐高校の魅力向上を目指し、町が

公営塾として開設している「あゆみ学舎」で講師を務める島袋玲さん。

あゆみ学舎は毎日放課後に開講しており、在籍する生徒は15人。生徒たちは、日々の

学習で分らないところを教えてもらったり、悩みの相談に乗ってもらったりしながら充実した時間を過ごしている。

公営塾の講師として奮闘中の島袋さん、じつは教育分野の出身ではない。

九州大学病院（福岡市）で2年間看護師として勤務した後、地域おこし協力隊員の道

を選んだ。異業種である教育分野に進むきっかけとなったのは、大学時代に看護学部で研究テーマとした健康寿命の延伸。お年寄りが自宅で元気に暮らすにはどうすればよいか探求する中で、若者との関わりが健康寿命に良い影響を与えることに気づいた。「どんなコミュニケーションでも子どもがいることで周囲の雰囲気は明るくなり、みんなが元気になるのを感じた」と話す島袋さんは、卒業後、看護師として働く中で、やっぱり子どもと関わる仕事がしたいという強い思いから教育分野への転身を決意した。

甲佐高校の田中学校長は「島袋さんは明るくアグレッシブな人。丁寧な指導はもとより、本校職員とも交流しながら、学校や生徒の目標達成に向け尽力いただいている。学校行事にも積極的に参加し、生徒と楽しそうに活動する姿をしばしば目にする。今後も甲佐高生の能力や豊かな感性の向上をサポートしていただきたい」と期待を寄せる。現在、地域と高校生とのコ

ミュニケーション活性化を目指した取り組みに力を入れている島袋さん。「甲佐町にあったらうれしい施設」をテーマにした校外学習では、生徒たちが町内の人たちにインタビューを行った。町の良いところを発見し、高校生である自分に何ができるかということを考えてもらうという狙いがあるそうだ。

「居場所を求める子、勉強したい子、地域探究を楽しみたい子、それぞれが通いやすい塾になるように、あゆみ学舎のあり方をこれからも考えていきたい」と島袋さんは意欲を見せる。

生徒と共に町に賑わいを創出していくことを思案しながら自身の将来にも思いを巡らす。そして「学校活動以外で子どもたちが地域の人々と交流しながら過ごすことができる場所を作ることができないか」という夢を抱くようになった。

健康・医療という異業種から参入した島袋さんは、「あゆみ学舎」という新たなステージで、その歩を進める。